

シラバス詳細

タイトル「2024年度 保健医療技術学部」、カテゴリ「大学 保健医療技術-看護」

科目情報

科目名	英文科目名
[[[人間の発達と健康Ⅱ(成人期～老年期)]]]	Human Development and Health II
他学部他学科履修可否	クラス
	NS1
担当教員	実務経験のある教員による授業科目
増田元香、池口佳子、宗澤紀子、大井千鶴	
学年	開講学期
1年	前期
開講時期	曜日・時限
前期	時間割外
講義室	科目種別
S0807 中講義室	講義
ナンバリング	科目区分
HUMA102NS07	人体の構造（必修）
単位区分	単位数
必	2
キャリア該当科目	備考
ディプロマポリシー	直接参照URL
人間の尊厳を擁護する上での課題に気づく倫理的感受性を持つことができる。 個人、家族および地域社会の人々に対して、専門的知識と技術を用いて、それぞれの健康レベルと個別性に応じた看護を実践できる。 看護専門職としての役割を理解し、関連分野の人々との連携・協働を考えることができる。 人々の健康課題を見出し、本人が解決できるよう支援することができる。 他者からの評価を謙虚に受け止め、自身の課題を見出し、取り組むことができる。	https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=216200096131&formatCD=1

講義情報

授業の目的・到達目標

授業の目的

看護の対象である人間を、生涯にわたって発達し続ける存在として捉え、人間の各発達段階の特徴と健康上の課題およびその背景や影響要因について理解することを目的とする。
この授業では、成人期から老年期にある人々について学習する。

到達目標

1.成人期・老年期にある人々の成長・発達と生活の特徴について説明できる。

- 2.成人期・老年期にある人々の健康問題とその生活への影響について説明できる。
- 3.成人期・老年期にある人々の健康レベルに合わせた看護の特徴について説明できる。

授業概要

1. 成人期の発達と発達課題：ライフサイクルと成人期
2. 成人期にある人々の就労と健康問題の関連
3. 成人期における特徴的な健康問題と背景①：喫煙
4. 成人期における特徴的な健康問題と背景②：生活習慣病（がん、心疾患、脳血管疾患）
5. 成人を対象とした保健・医療・福祉行政
6. 健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点
7. 成人の健康レベルと看護の特徴－急性期・回復期・慢性期・終末期の看護
8. 老年期の定義と特徴
9. 老年期の加齢変化と生活への影響①：百寿者研究の成果から
10. 老年期の加齢変化と生活への影響②：高齢者の消化機能と栄養
11. 老年期の加齢変化と生活への影響③：高齢者の感覚器の変化
12. 老年期の加齢変化と生活への影響④：高齢者の認知機能の変化
13. 老年期の加齢変化と生活への影響⑤：健康格差と背景要因
14. 高齢者の健康維持に関する工夫をインタビューする
15. まとめ

各回の授業内容

学習演題（予習・復習）

【成人期】
（予習）

授業は、教科書の該当部分を読んでいること、および下記の課題を行っていることを前提に、追加資料に基づいて進める。したがって、教科書は必ず熟読し、加えて 下記の課題についてA4用紙1枚にまとめて授業に参加し、授業後に提出すること。提出された課題は、翌週返却するので見返すこと。

- 1回目：教科書p.2～40、「18歳選挙権に関する自己の意見」
- 2回目：教科書p.42～58、「非正規雇用労働者が増えることによる問題点」
- 3回目：教科書p.122～150、「喫煙の健康に及ぼす影響について」
- 4回目：教科書p.151～169、「がん対策基本法の概要」
- 5回目：教科書p.172～222、「アンドロロジ（成人教育）の概要」
- 6回目：教科書p.224～277、「健康（保健）信念(Health Belief)モデル」の概要
- 7回目：教科書p.293～323、「死にゆく人の心理過程について」

（復習）

授業内で触れた内容のうち、十分理解できていないことについては、教科書・参考書を用いて復習しまとめておくこと。

【老年期】
（予習）

- 8回：高齢者の定義、年齢区分、世帯の特徴、エイジズムについてまとめる。
- 9回：百寿者の特徴についてまとめる。
- 10回：高齢者の消化管、栄養状態の加齢変化についてまとめる。
- 11回：高齢者の視覚、聴覚の加齢変化についてまとめる。
- 12回：高齢者の認知機能の加齢変化についてまとめる
- 13回：高齢者の健康の特徴と経済状態についてまとめる
- 14回：高齢者の健康歴の聴取方法についてまとめる
- 15回：成人期、老年期の授業全体を振り返り、学習成果を整理する。

（復習）

授業内で触れた内容のうち、十分理解できていないことについては、教科書・参考書を用いて復習しまとめておくこと。授業の内容、キーワードを整理してまとめておくこと。予習・復習のまとめは提出を求める場合がある。予習・復習の成果を小テストなどで確認する。

1回の授業に対する予習・復習合わせて4時間程度とする。

授業方法

講義および演習を行う。

予習に基づいて授業を進めるので、積極的な参加、発言を期待する。

授業後に振り返りシートを提出してもらい、その結果については次回の授業で学生にフィードバックする。

成績評価の基準

筆記試験で、総合的に評価する。

教科書

林直子/鈴木久美他編：成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える 改訂第4版，南江堂，2022。ISBN 9784524230730

堀内ふき/諏訪さゆり他編：高齢者の健康と障害 第7版(ナースング・グラフィカ 老年看護学 1)，第7版，メディカ出版，2023。ISBN 9784840478403

参考書

服部祥子：生涯人間発達論 第2版 医学書院 2010。

野川道子：看護実践に活かす中範囲理論，メチカルフレンド社，2010。

その他、講義において適宜提示する。

実務経験のある教員による授業

実務経験の内容

-

実務経験の当該科目への活用

-